



地震が起きたら

緊急地震速報

緊急地震速報は、地震が発生してから強い揺れがくるまでのごく短い時間を活用して、地震による被害を軽減しようとする情報です。緊急地震速報が鳴ったら「周囲の状況に応じて、あわてずにまず身の安全を確保しましょう。」

気象庁は、最大震度5弱以上が予想された場合で、震度4以上の揺れが予想される地域に対して緊急地震速報（警報）を発表します。地震速報は、以下の方法などで専用の報知音とともに伝えられます。



テレビ



携帯電話・スマホ



防災行政無線

震源に近い地域では、緊急地震速報の発表が強い揺れに間に合わないことがあります。

出典：気象庁「緊急地震速報」、文部科学省・気象庁「活断層の地震に備える」

地震発生から避難後までの行動マニュアル

地震は突然発生するので日頃の備えが大切です。緊急地震速報が鳴ったら「あわてずに身の安全を確保」し、揺れがおさまったら、「在宅避難又は避難所への避難」等を適切に判断しましょう。

地震発生

緊急地震速報が鳴ったら 大きな揺れのくる前に

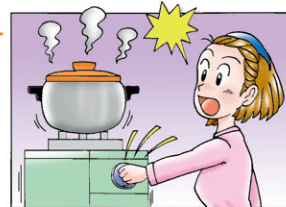
- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難しよう。
- あわてて外へ飛び出さない。



緊急地震速報

揺れがおさまったら

- 火元を確認、火が出たら落ち着いて初期消火をしよう。
(消火器を使用、風呂の水を吸い込ませるなど濡れた毛布等を被せて消火)
- いつでも避難できるようドアを開けて出口を確保しよう。
- 家族の安全を確認、倒れた家具の下敷きになっていないかを確認しよう。
- 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはこう。



山・がけ崩れの危険が予測される地域の方は、身の安全を確認してすぐ避難しよう。

安全な場所に避難しよう

- ハザードマップから満濃池や自宅周辺のため池が決壊した場合の予想浸水深の合算が 0.5m 以上の場合は、それぞれの予想浸水深に応じた避難をしよう。
災害時の防災行動を参照 P.1
- 大きな揺れにより自宅が損壊した場合又は余震による揺れに不安がある場合は避難所に避難をしよう。
(自宅の自己点検の一例)
天井：天井の取り付け具合を目視点検
壁：壁に亀裂が入ったりしていないか目視点検
窓：窓の開閉はいつもどおりか点検 ガラスは割れていないか点検
扉：扉の開閉はいつもどおりか点検
傾き：外から自宅の全体を見て傾いていないか等を目視点検
(自己点検の結果、少しでも不安がある場合は避難所へ避難をしよう。)
- 安全な場所に避難した後で、避難情報やため池の点検状況を確認しよう。

